



河内名所記卷五

愚知禪社

高野郡

愚知名所塚

日

垣内

日

教真寺

日

服川千塚

日

新津丸田

日

追以越

日

手塚

日

十三越

日

厚平郡

讀良郡

愚山觀音

日

多文

日

秦川勝塚

日

秦行團名源治

日

寢屋

文野郡

三井法光寺

茂田郡

中振龍寺

日

中振光寺

日

河内名所記卷五

多安那

神立 日か

業平寺要通 日か
大行村

楽音寺 日か

六万寺 河内郡 日か

日条湊子楠 正行石塔 日か

又条 日か

出雲井 日か

池崎 日か

伊弉山 日か

藤子他 文野郡

来山 日か

村野 日か

那津 日か

皇回 日か

田原 日か

友坂 日か

因可池 日か

鳥立原 日か

福是 日か

飛火隈 日か

地ヶ火 日か

物巻大の神 日か

園上り滝 日か

鬼ヶ森 日か

総巻山 日か

目下 日か

龍石 淡良郡 日か

浄寺 日か

野崎観音 日か

同観音 日か

多延寺 日か

私戸 日か

森村 日か

私市 日か

岩船 日か

獅子岩屋 日か

百重ヶ原 日か

本まけ松 日か

野村 日か

深神池 漢良郡

瀨 日か

小糸 日か

飯盛山 日か

南野系摩山觀音 日か

中野觀音 日か

鴻尾城 交野郡

源氏瀧 日か

三本杖 日か

大橋行足御門 日か

洞所 日か

○高安郡 慈和神社 二社 並名神大月 延喜式 有

天兒倉根尊身又世之孫大所 延喜式 有

本社二社本地秋也茶師文殊普賢也

小文七社天照太神去日西文玉祖行吉慈野尊也

八幡乃社ハ六七町奥之山のと小あり

いしハ伽藍不々々茶師堂觀音堂毗沙門堂等あり

山号ハ尼川山神又寺千手觀音今ハ一坊あり

楠正成中より本尊より申不動の玉乃繪像あり

外十七社乃繪のむあり

○慈和た近也監正遠回城山より有いたを此城よりなる

橋乃天本根とハハハハ九本小あり

御奇

ことわりじつじつうふた近れ梅花もや九本に津をぬん

良吉

單れ露とさうり 慈知れをあしつりあとの海り年々成

一本れ梅をいほこあつり心 戸重徳

八重一重さけあけぬく梅花 戸正次

花いも弁髪と左をれさく 如貞



安那

東

慈知大明神

切ら村

切ら村

○のいさう垣内とま更加茂のちのく又小中約の如き
うらら^るりありいはいふのこいこわくごめんかりひりぬ女
よほひまふれくははま更きよりありひりこあり

相奇

香隆

ふりんえとく自ひ計とらんや香も毛そ月々此垣内は

ありらり垣内下つちと蝶の年

徳清

無風といらん中約のくさうり

一十

○教無寺慈心院昔八回り三十四所にて七堂伽藍あり

をり^るとてなごり無礼焼滅今よりく一坊有千と

観音のれがくうま若おひかて深名とりに二家徳心寺

天の社あり神殿有龍有正月七月六月七日は五日後日と

美濃の鑑集とあとも縁起三巻有あつたりよとふる夜ふと

玉葉

何上人

ふり田中むれ者も安の里い意に寺とあつた下

花れ血弁才天女う義人草

義憲

天女のや結く結るは跡の系

正次

星れ露や弁才天より下り月

権板

月と天女今宵八十二又童る

津宣

教無寺栗うとけり心跡付成

如貞



○ 山崎村のいさ石越すといふ千塚と大石にて塚定と
 拵へ何と南じさばわりの則千わりのい因塚とあらは
 いけり此のありき人雲一の美^{ツグヒ}蟻^{アリ}くして人氏とさ
 ありさうなまは塚とほりさあひ石のわいと業とまを
 もつとわりのされたらうとめん又一洗よ天下ひてりあつさ
 時とるさうかひさるる今いづ自有とほ火れぬふありあり
 するさ由そともんへくは塚と拵とせすああ
 しく火の西ちりらうささるふ波塚虎へうさこも人今
 たせうわらうとそをれりあふよさこも人つがなささ
 けうさにああうさこも人つがなさささ
 けうさにああうさこも人つがなささ

○ 山崎村のいさ石越すといふ千塚と大石にて塚定と
 拵へ何と南じさばわりの則千わりのい因塚とあらは

言ふおれ里のたり 庭風よらり 昔とたにたりのひ

日 法橋可慶

恋ぬあ別まの水も言ふ安れ昔とすかあのれまのひ

回るやまやじう 男のわき屋敷 定親

かりむいハ花よ言ふ安ううひうか 仲重

言ふ安や花も二層よまうう梅 二十

里れ名乃言ふ安くかひ部云 梵達

時のまや声も言ふ安乃里海ひ 貞弘

鶯れ鳥の福も言ふ安のうう草 良源

言ふ安や二道うまの向あ乃月 芳昌

風とらうとくちり言ふ安のううか 之次

○神宮村本社玉祖大の神介 大社有中 天竺之林石ハ

行吉西之太ハま同苑山号ハ感應山寺南光寺竹之坊

本堂午の観多るま日ハ他世長二尺観多る天祥乃所考

大般乃六百と春日乃所考也とそれ約ハ乃所考

別れわりのあふれを快あり天師乃乃人約ハ乃所考

相奇 相深

こころふあわぬ玉祖乃所神し心らりにはしうとあつり

庵とまや玉祖ハ神の系概 意雅

弟ふうふた息すとそ落乃玉祖ハ 可圭

神本れお話と玉祖乃氏子乃所 共月

神変りお話乃玉祖乃掃むり 貞純



○葉平の宴通ひのうすの川はよりの人平雲乃
 大ゆ律のまらうしきく能れありきり目人物りこりに
 ころあつり里河海りありし小板を小板をれじよあ板の
 水くこいせもさるうたがわむしんあひうこち世にせしん
 恋恋ひのひしよあひあを恋れ水とPゆりともりの小板を
 とPの人をんかきく恋り野のひしよとこきくあまはるん
 しと里人この恋れいしあうりしあゆみははるんゆり
 恋りあ

則武

今日世ましく恋とあうしるがひひく恋れ水にあれ男
 日

良賢

ういあひるあふ恋れ水がく女波男波りさやしあらん

日

梅城

山烟はほき思ひハ井れなとかりあらんる恋れあふ
 恋れあじしふ恋やけとやうあ
 おやつり浪あつる登あらんめ恋れあ
 びうし男あてや恋りあひいひ
 蛙とくゆりり西や恋のあ
 葉平の恋りあしやうとま
 春人あしうまあし恋や恋の水
 あつとあれやけしやあす恋のあ
 家恋れあふ教まや文月恋
 びしうく人たうひは恋や恋の水

好去
 貞純
 元中
 定親
 黒水
 圓心
 重法
 正音
 安成

二道れららつてゝ一急れあ 野鹿
雷女ふれやとと一急れあ 良賢

業平ふあふひまふ新よりとらふね乃其乃あふふか
まらるとい名よりあひよりれ掛名とや也又い名よ
りあひよりりこらとい名あゆむれれ梅名はつとる

和奇 紅梅名 澤久

なりしれそのあといふ鳥れ紅梅名より経より初
日 衣掛名 徳信

春さくふえならひつゝあひれれひるまかよとふ衣掛名
日 一利

いさびう男、後にさぬけり名がよ替れあふ念力

衣掛れいといと人との能うふ 一志
前とさう紅梅名にちり 藤 政公

花れさといつは衣を忘れ 正音
さふ書や衣つけ名つて又亦 忌水

かりしつゝあふよりあひまひくのみかといひつれあ
去り根りしとく吹すふれよ節吹去とくはくは
節吹去りす徳よりとくくつ

和奇 曲信

さ安らうふあふれあ節吹れ松のまやといふはつれあ
日 重次

いづたよさふとらうとあ祿乃はつてはさふ節吹かん松

相奇

笛吹松

松縁

かみくらん
日 けりていれぬよふえぬまのねり指よまのついでに
日 乃次

せつりやうしつりふありしれり笛吹松に今よわり

まにまう笛吹松より維新の
徳清

さざりまう笛吹松にさうり
一志

笛吹松よりまうまうまう
栄貞

身やじやうりまうまう笛吹松の風
安成

笛吹松の役者や初あう
良賢

ぬえうまれねりねりねりねり
良賢

○大竹村の内よありしつりねりねりねりねりねり

相奇

則武

あつひまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう

大竹や里のりまうまうまうまうまうまうまうまうまう

あまき酒のり大竹のりまうまうまうまうまうまうまう

伴勢物決よいまうまうまうまうまうまうまうまうまう

風をそく沖津の波のりまうまうまうまうまうまうまうまうまう

まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう

まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう

まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう

まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう

まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう

君らわりのほいさらん伊勢おまはらうとあつと
とひく見んといひしつしてやまへん今んといひ
と後いひまじよとていひかひの事

君らんといひ一軒まじよとていひかひの事
といひかひの事とていひかひの事

い候と紀の者常々女のまじよとていひかひの事
まじよの事とていひかひの事

まじよの事とていひかひの事
まじよの事とていひかひの事

まじよの事とていひかひの事
まじよの事とていひかひの事

まじよの事とていひかひの事
まじよの事とていひかひの事

まじよの事とていひかひの事
まじよの事とていひかひの事

まじよの事とていひかひの事
まじよの事とていひかひの事

まじよの事とていひかひの事
まじよの事とていひかひの事

まじよの事とていひかひの事
まじよの事とていひかひの事

まじよの事とていひかひの事
まじよの事とていひかひの事

多安の里に東よ窓とあきあけのうらみゆり

相寄

別巻の水

山音

二乃とうふちすこさかりしれ別巻の水れまのほめたさ

お習り不毛もといんらあはふ うら 如元

お習りもつらふら水はも向ふ 良賢

曲あれえんや別巻のうらまされ 忠孝

え衣やあいのうもこれ水あふひ 安盛

かゝん難れ別巻のうらや網の露 好春

病あふぬまや別巻の水くさひ 似柳

かりじらうあやれとわねま 黒水

汲といよ別巻のあはれ月うら 貞龍

入川よ別巻の水れ名流うら 林誠

○ 樂多寺茶師いかに八観多ありまろとそ四流

ち安門

鶯れ琴うらうらるうかくあへー 吉勝

○ 六方寺山号岩流山生院状也何孫院観多うゆす首の

何孫院

いふ風味世勝多拓極う木木とい持世ありひるすけはさうあは

相寄 意邪

ち四かん生流うらうられ又六方つぶもわんをそらふ

○ 四糸繩子楠正約楠正時石塔あり

相寄 久住

石塔と刀らふ人のこらうつらと刀らふさぬ一色洞がして

相寄 相録

楠れ石ふかりのしと今こに由えたりんらりや正侍りう塚

日

林城

歌と力んきたりあふり共い白糸縄多とせんをう武士

花咲ち多と群うの白糸うか 黒水

○又糸正観音

夕白のやも向ん又糸乃観世者 久住

月れ都河内しありの又糸小 黒水

○出雲井村土面観音

正定

観音れ光らりとしかり山陽よ十八日乃月やお雲井

出雲井よ八日乃方うかく時 如貞

○池乃徳観音

○生駒山内川乃清よりありきん庵きしり和雲乃と後え

心河内ぶぶあうりあめめ物たしこさよてまらりさ弱

と生うひてあせさるれさて生駒ふと名付あまや物乃

後拾遺

良暹法師

わこのや大はれさしに宿りてを井ふ刀んゆり生駒ふ

愚茶

定家

けふれや咲花と今と力ん心生駒山乃君の村さん

新後拾遺

平貞秀

難波よりみえしとあられ生駒山今八いれそ又月あれ

新抄

生駒山あしはてとらりそらゆき

大徳正統基

法乃月久くととふか思んこさよあまらりえん三門

續後撰 天平廿一年伊弉諾集して後とそりゆきり遠戒方 同

かりそめれをとうり我を今又小物か思ひそ佛ととわね
良弘

大和河内由比川と尸魚し生駒の山れ麓ありやく

良弘 元信

お月さぬんはくまてん生駒の山雨氣たりととまほりあり

宗圓

いとほふよ横雲つるけ生駒の山

一雲

桜花来つ下麻毛の伊弉山

同

雲小穿よい海鳥のそ根か

善心

わらわくく鳴か生駒れ常子色

宗音

ゆふいしきと初都のそ勢一云

正俊

之霧ハ生駒の山れ尾傍うか

黒水

照月れ境靴とをいこ海やま

常政

河内よや古くと流と生駒山

政云

身ゆりひや空うら生駒山下凡

清次

○飛火れ隈 生駒山と真いらりて

一利

かり練が生駒れ山ととありけい飛火れ隈のやと編集あり
あらし池へそふ火れ隈の雲小 良弘

○ 焚く火は周流と為る我々の平生の所積る灯心の伸益
ゆる焚くよしの殊の冥器ともありきしは焚くゆかりの
山ねらよきびありくまわつてこまをわく人の目や輝り
くろくは火炎の神の光も焚く者ありて空のまを
火れしくわくゆる火の焚く者おつて火をて別世の焚
つ火としつて火をよき安んずるに能くあひて今も火を
焚く

良燧

中々して火の色とすの西に中よる火のほろりて焚く茶

曰

良賢

河内流る下に焚く火をいんまはの焚くつてめいよと

かまろく火の色とすの西に中よる火のほろりて焚く茶

焚く火はやむらひの焚くつてめいよと
材成

焚く火はまはらふの焚くつてめいよと
重次

焚く火はまはらふの焚くつてめいよと
素云

焚く火のまはらふの焚くつてめいよと
安永

六目圓てつてめいよの焚くつてめいよと
良賢

焚く火のまはらふの焚くつてめいよと
一十

焚く火のまはらふの焚くつてめいよと
良賢

焚く火のまはらふの焚くつてめいよと
宗系

いゝ子とてめいよの焚くつてめいよと
流澤小

焚く火のまはらふの焚くつてめいよと
西三首

くくりにいひりいせりあきりか

常政

○牧野大の神

- 一 牧野天兒屋根命
 - 二 麻呂武甕槌命
 - 三 香取経津主命
 - 四 會殿姫天照太神也
- 若美殿天押雲命

正月十日御神前よりく粥と焼粥の中へ入穀并新米の
 ち敷かす竹のくまきとわきまに名とうき付くはつるもれ中へ
 入邪人お出さくさく申すもれ入持のくまきと後今にきさく
 とせらるる思とふもつる也

新

政安

凡あまきし牧野のくまきとわきまに名とうき付くはつるもれ中へ
 入邪人お出さくさく申すもれ入持のくまきと後今にきさく
 とせらるる思とふもつる也

日

可成

牧野の神の御事ハ二所之に記すは小倉祓にりりた

ゆ神のゆきんくたあひくおる也

定圃

牧野の神の御事ハ二所之に記すは小倉祓にりりた

豊浦の末通と十一面觀音御事ハ二所之に記す

日

正之

以礼を愛はるとそをゆきとゆきり觀音堂の下の下
 葉師ハ八木寺と云あり河内長又又
 地蔵院ニ子安の比賣の御事ハ二所之に記す



○ 園らの時

花も大しきものもくくくの時
梅もくくくくくの時
くくくくくくくの時
霧もくくくくくの時
月も入江のくくくの時
月も秋も雨もくくくの時
くくくくくくくの時
くくくくくくくの時
くくくくくくくの時

○ 鬼丸の獄

くくくくくくくの時
くくくくくくくの時
くくくくくくくの時
くくくくくくくの時
くくくくくくくの時
くくくくくくくの時
くくくくくくくの時
くくくくくくくの時
くくくくくくくの時
くくくくくくくの時

可次

常証

東江

重健

常有

黒水

貞因

元中

周本



仍ひ叶ひまふらふわは山ありて鬼練とて入野老と向
 使者もあまの故盤切山とて是慈光寺八坂江若
 角甚則自修の観る 年 本像は自新有十社権現
 役の老の角錫杖まさるわがてあまの以昔は鬼とて初
 ろま山にまはるるとままあまのては山にたあまを
 まもまのては小角に役の老役のままをまのては
野老
良賢
 野老のわさまといらく山人のままといや鬼の穴
 大森の鬼の穴の森かみ海りる
 月や尺のえあ鬼の穴の森は秋凡
 野老

○同下草香山北命はつまより天相海多入いふはしてくまの申
成ふなり故家よまのりふ和奇集の扱は入 くまのりふ

藤盛 くまのりふ 師光

少川北入のりりハありきくまのりふ くまのりふ

同下たて くまのりふ のまろく くまのりふ

同 くまのりふ 清重

同 くまのりふ 次重

草のりり くまのりふ 富吉

○珍る寺龍起 くまのりふ 元信

○経古山珍 くまのりふ 計弟堂

○野崎 くまのりふ 松緑

○野崎 くまのりふ 保友

野崎の御妻山

河内鑑考七

道眼寺

野崎村



○深野池の大さなる池なり

親友

よのつらまれの葦と散々一親よふうろ池にあり

弁れ理やうろ池の草水

刈る水如負

親回法次

○積那の池

行家

こゝろ多しはくは河内海より約とやそ今

細引圓玉

倦ておれは花一枝正之

○小糸村松丸正観金佛なわ河内長一尺五寸

○飯盛山首の池

擔板

たれしと云はりそれなりと云ふこと思ひとすなりと
おしお家とかりいふよとわくそとてなほな
まうと云はりよとて厚そとてのりなりと云ふは
○世山 世山は世とたふりなり 慶長十九甲子年依左坂

御陣五月又月秀忠といふ山御本陣
いふよ秀命長久の妻れ大木ありと見性寺の号と
少林山と号す本誓の正観音の誓法太子の御也
御長閑人守すわり

物後撰 法下寛寛
他人ふたりとてて都ふむとる志乃いれ世と
ま本

乃と人と云ひつる世れれとてなかりひくは振くはれ
ね奇
うつくと云ひつる世れれとてなかりひくは振くはれ
日 次重

年とてと云はりつとてなかりひくは振くはれ
都ふなと云はりつとてなかりひくは振くはれ
そらと云はりつとてなかりひくは振くはれ
紅雲と云はりつとてなかりひくは振くはれ 同

○馬交村放生寺十一面千手立像御長八守
○秦村と子乃長下秦川勝ひて西心也 首田波有
○い秦村と昔名瀬治有後多羽院御長十尾乃

諸處乃雅治乃四物河と申と奉心いふよりわろ也
はまらふよりんまうふまわら河の子 定圃

○三井村系の本能寺尼修ノ弁真寺いふ三井乃
寝屋村むいふらうのまれよりふわろと者いふはふら

○三井村系の本能寺尼修ノ弁真寺いふ三井乃
本殿寺いふ三ヶちの同一いふは日隆大と人開基則日

隆門自筆乃の石塔ありとてお教ぬ河の自巻あり
当一羽あゝは皆法光宗他宗一人もえんか

○中張法光寺法光山正觀者太子此は地出長三人
同村光的も延命山正觀者ありとて地出長三人又寸

○茄子地村茶師堂あり 殊者といふあり

○米山 粟の首
米山は粟よりなる子すくはれ羽とれうりのなるは

和奇 如元
米山と知りよれとて食に焼てとれたいふあり

曰 次重
米山れとて換へ依りてゆふいふる限あり

兼道茶山米山かきとやなたる 兼水

米山とけいしと鹿ハとてとるか 初武
こめ山れ白ありと者乃粟下那 野鹿
米山よりたがとてはく小粟花 富吉

米山やまふ分海つれ小ま花

米山やはく稲人ともつらつし

米山まふんか扱くくねあまふ

米山も同じく米山れ守守

米山よつらつわまふくまふ

米山し西風してやまふく

米山観音寺天野山と号久正観音

郡津村之寺山長安寺十一面観音

星田妙現山小松寺れ観音は山号八三窟山

天竺川のりきけんハ星田なり三月九日の初

星田かろ苗代水や天の川

菱花といふくくかんまふ

目くあはや面ハ星田の極下

秋くくとおや甲乃星田人

又月雨ハ空くくかんえり星田

冬めとくあひ一若れ星田人

秋乃目よ新てり由れ極下

月乃くまふくくかんえり星田

の星くかんえり由れ極下

正次

正俊

一利

常有

正利

重次

重健

正次

正俊

正利

正次

正俊

正利

正次

正俊

正利

正次

正俊

正利

正次

正俊

正利



○田口安楽寺子より十一面角佛也

○菟坂嶽山ゆきち十一面観音河長一尺八寸

○固可池 家隆

くさくさ系れよりかろ池の祢ねかいらつ祢ねねハ派の下にあり

またま 衣笠

新米造ひよりりか白系れよりりの池ハあり名あり

狂奇 友和

飼付よよりかろ池の鯉鮒ハ新と細とよとんかあり

日 次重

毎山人よ思ひよりかろ池よりよとふとよとよとんかあり

より池ひらにんとしてや花堂 新水

鳥立原

前園白太政大臣

初冬 此物とくささらぬ系とあさつて交野のふさすきさ

隆云

わらやまをさるればほろろい名案いあすきさるる

友和

天代わらまをさるる系にらるる鹿 之圃

亦さるるやんらるる原にさるる鶴 好云

○後長村息松山梅念寺土面観多四長わん何との化

○同 長尾山正也庵土面観多恵心心所化

○多正寺山号八波八波山正観多金佛也山正所化

○私アと長身山光通寺如意梅観多所化山正長身寺

後村上天皇の勅教不開山別号和南禅

○本林村各通山復法寺千の土面長身山正寺

○私市観多寺如意梅観多所化

○岩和山八万斗ノ岩舟川勝あり六月晦日系所化

○獅子の窟寺普見山行基山正菩薩開基

○雪武天皇勅教寺也山正院中廟不あり

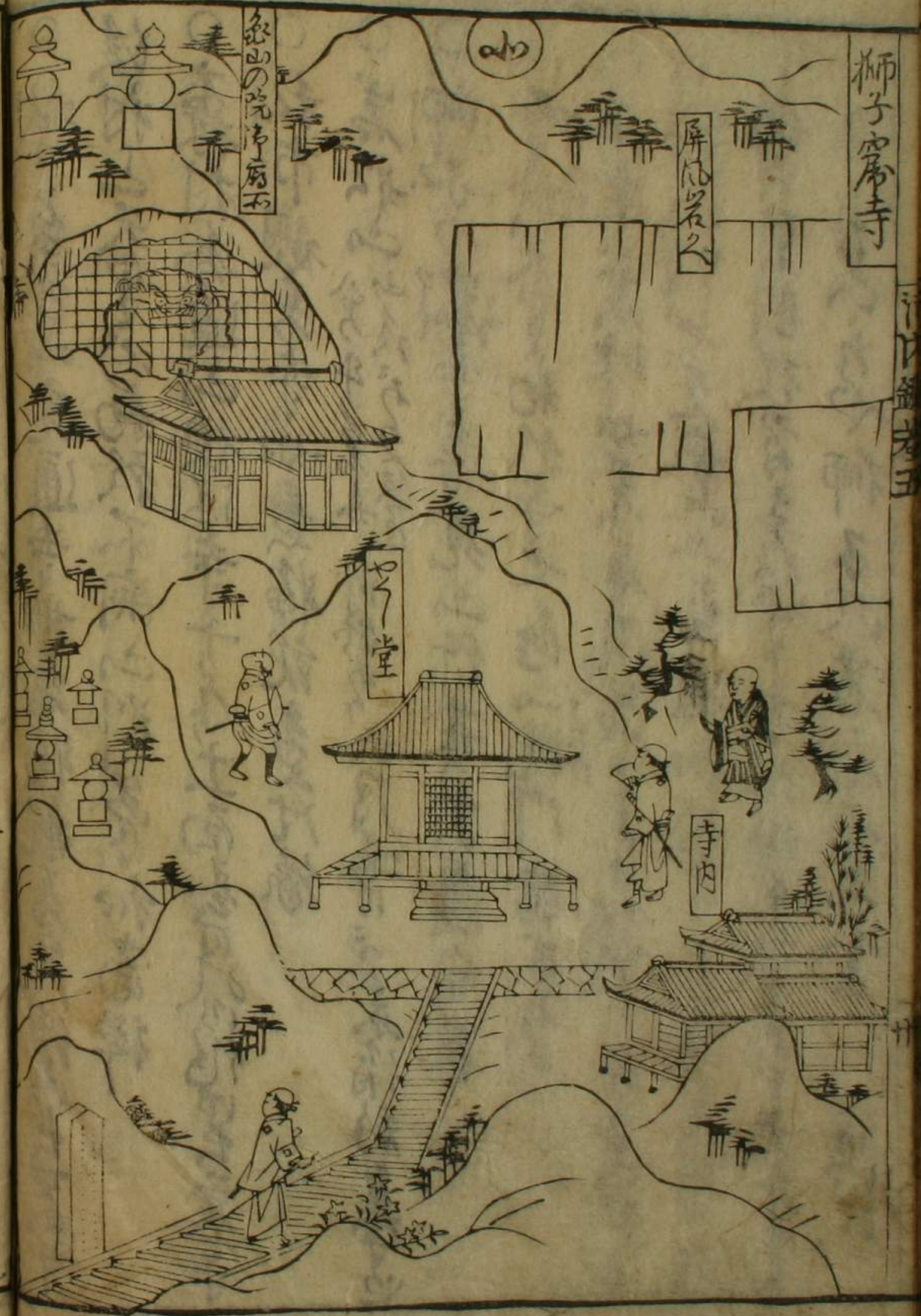
本堂ハ業師如來屏風山正若くはのくあり大石を

長山正也光敷比丘空通和尚山正寺山正に

所肉禁制孔有山正し山正持揚系あり山正なり

山正 獅子の窟寺普見山行基 菩薩開基

獅子窟寺



すしやうと獅子の岩をぬく

正音

十六夜より岩を乃月見の形

周正

冬霧の石吟と獅子の岩を

忠昌

○百重の原

鴨吉明

うさねたりりうさねとほのまも恋もや何んたの都と

次重

とつたれ救の百重うけのまや我の一夜のやうたのま

守徳

花れ湯や百重の原の幕つら

徳清

○大念佛宗の本まうけま

うらとまうけまうけま

典強

○野村妙高山傳福寺正觀多行基河他山長三又八五寸
 ○鴻尾山の長あり八五寸方 の長あり八五寸方 正觀多行松字多
 之中の長あり八五寸方 書あり付し有又は石中の長あり八五寸方 卒六款の
 法花經の長あり八五寸方 紙金泥の長あり八五寸方 去一款石とほら中の長あり八五寸方 入上金泥の長あり八五寸方 以て
 地と紀し由事付あり南の方三のり斗の長あり八五寸方 石のくひりてをてを
 是八之寶の長あり八五寸方 荒神の長あり八五寸方 杖字あり神殿ありと多井ありと
 少方六のりの方の長あり八五寸方 石有又月杖字あり者ありと下傳り
 ○比山の長あり八五寸方 水派氏の長あり八五寸方 の籠と傳り少のり月杖の長あり八五寸方 一と平杖の長あり八五寸方 杖多堂其り
 本山の長あり八五寸方 法堂と云本多如意梅の長あり八五寸方 不動堂の長あり八五寸方 有の長あり八五寸方 兼金巻里也
 久任

鴻尾尾の久にいよ入や月杖のり

西方の山を築定
 兼金巻里也





○はつゝあきあきよお石氏らふ人れ娘河内禁野のく人れ
 とく嫁してゆきまに久しく物といふもなれ美彦なり
 とおひてさるまるとりゆりころ文野とあつよ維より
 中こになくともさくく海よりともいへく是と初るま
 時彼女興つらうらうらむらむらあきく
 ものいふとみかたりく橋よりらあきく維よりさき
 とくさくかまきくく相い酒いふあきくさくさくさく
 はきくゆりゆりぬ甲斐田川許村のりよよにむ枚
 りさきさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 ○大橋いふいふ今れ船橋川よ大橋ありくさくさくさく
 りさきさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

て船橋よりわたりしきまら人波りゆりきまらにちては川
と赤橋川とをいひ侍人ゆり行是羽川とていひ川がまは

万葉九

よまら人あはれ
下八里

あまてりやうあまら川のまわりは船橋をよまらわたりしき

同

又橋のわたりはあまら川のまわりは船橋をよまらわたりしき

又橋ふまはれははじしり花はるる

政云

川はるるや氷つとわく片是羽

意羽

○洞々峰山珠河内あまら橋をよまらわたり

和奇

正音

とらふの貝もやわらふ峰よりわらふまらとらふ花軍は

